

## 第188回（平成29年11月26日施行）

### 2級商業簿記

#### 第1問

本問は、基本的な取引における仕訳の理解を問うものである。

1. 株式の発行に伴う払込金額のうち、資本金に計上しない額は、資本準備金勘定で処理する。なお、会社設立に要した諸費用は、創立費勘定で処理する。
2. 前期末に繰り延べ計上した受取家賃は、当期の収益となるので、期首に決算整理仕訳と貸借反対の仕訳を行い、収益に戻す処理を行う。
3. クレジットカードにより商品を販売したときに生じる債権は、通常の売掛金とは区別してクレジット売掛金勘定で処理する。また、クレジット会社に支払う手数料は販売時に支払手数料勘定で処理する方法によっている。
4. 修繕引当金が設定されている固定資産の修繕を行ったときは、前期末の決算において費用計上ずみの修繕引当金残高を除いた額を、当期の費用として修繕費勘定で処理する。
5. 決算時において、外貨預金は、決算時の為替相場で円換算する。決算時における換算によって生じた為替差額は、為替差益勘定または為替差損勘定で処理する。本問の場合は為替差益となる。
6. 損益勘定の借方残高として計算される当期純損失は、株式会社では繰越利益剰余金勘定の借方に振り替える。
7. 当期の法人税額を費用の勘定である法人税等勘定で処理し、仮払法人税等勘定に計上されている中間納付額を差し引いた残額を、負債の勘定である未払法人税等勘定で処理する。

#### 第2問

本問は、諸勘定が簿記の諸要素のいずれに属するのかについての判断に基づいて、以下の簿記の基本等式についての理解を問うものである。

#### 貸借対照表

- ・ 期末（期首）資産＝期末（期首）負債＋期末（期首）純資産
- ・ 期末純資産－（期首純資産－配当＋増資）＝当期純利益（△純損失）  
↳ 期末元入純資産（資本）：決算整理前の純資産

#### 損益計算書

- ・ 収益総額－費用総額＝当期純利益（△純損失）
- ・ 純売上高－売上原価＝売上総利益  
純売上高＝総売上高－売上返品・値引高  
売上原価＝期首商品棚卸高＋（総仕入高－仕入返品・値引高）－期末商品棚卸高  
↳ 純仕入高

### 第3問

本問は、各種取引をどの帳簿に記入すべきかについての理解を問う問題である。なお、売上値引は原価に影響を与えないため、商品有高帳には記入しない。

### 第4問

本問は、3伝票制で、仕訳集計表の作成、総勘定元帳への合計転記、補助元帳への個別転記についての理解を問うものである。入金伝票に記入されている科目は、借方の現金勘定を省略した貸方の相手勘定科目、出金伝票に記入されている科目は、貸方の現金勘定を省略した借方の相手勘定科目であるということに注意して、仕訳集計表を集計する。

### 第5問

本問は、以下の手順で本支店合併貸借対照表を作成するまでの理解を問うものである。

- ① 決算整理事項に基づき、決算整理を行う。
- ② 本支店合併精算表で、本店勘定と支店勘定の一致額を相殺消去する。
- ③ 残高試算表の本支店の合計額に、上記①②の整理・消去記入を加減して財務諸表（本問では貸借対照表と損益計算書の売上総利益、消耗品費および支払利息）を作成する。